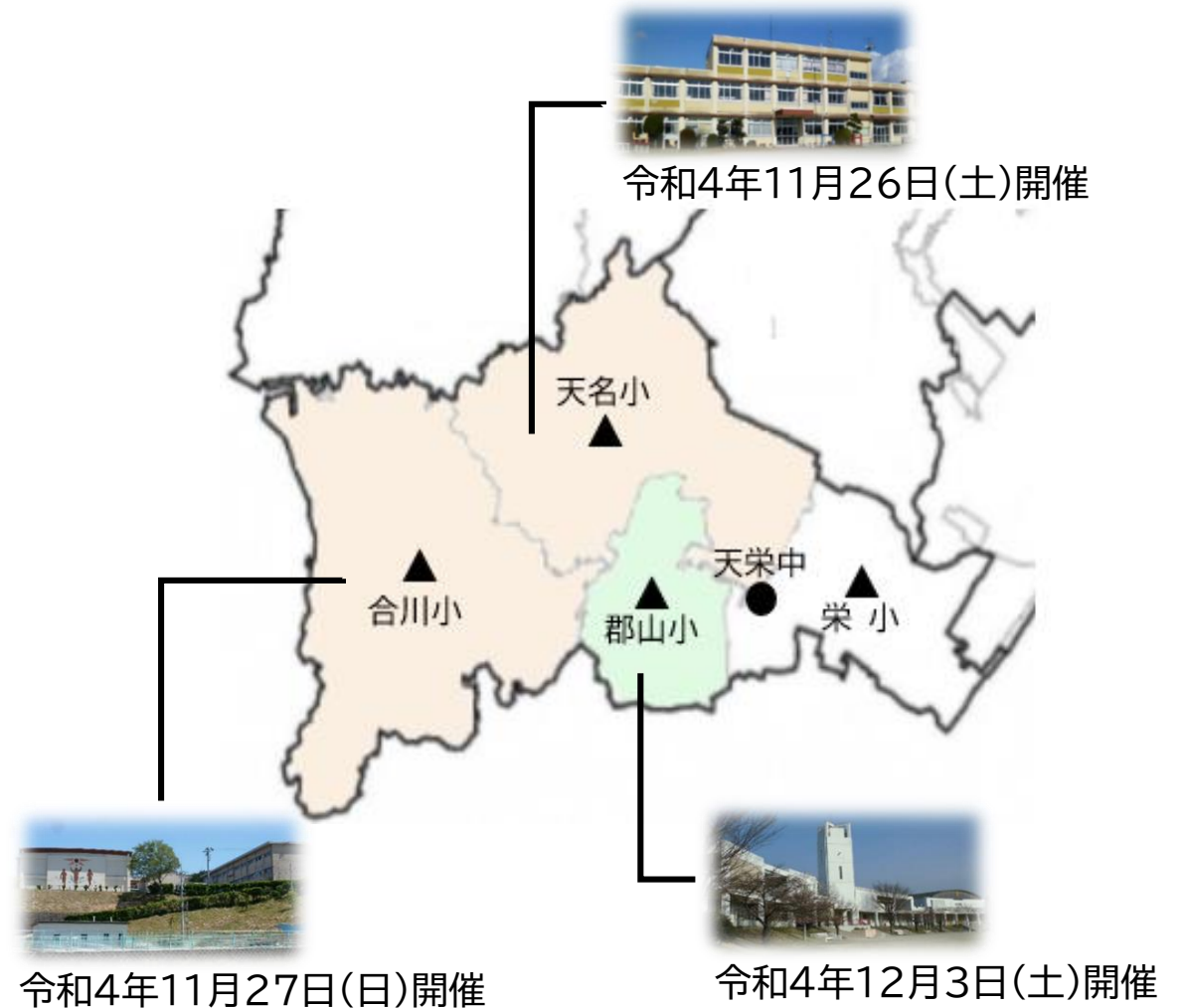


小学校の統合に向けた地域説明会

(配付資料)

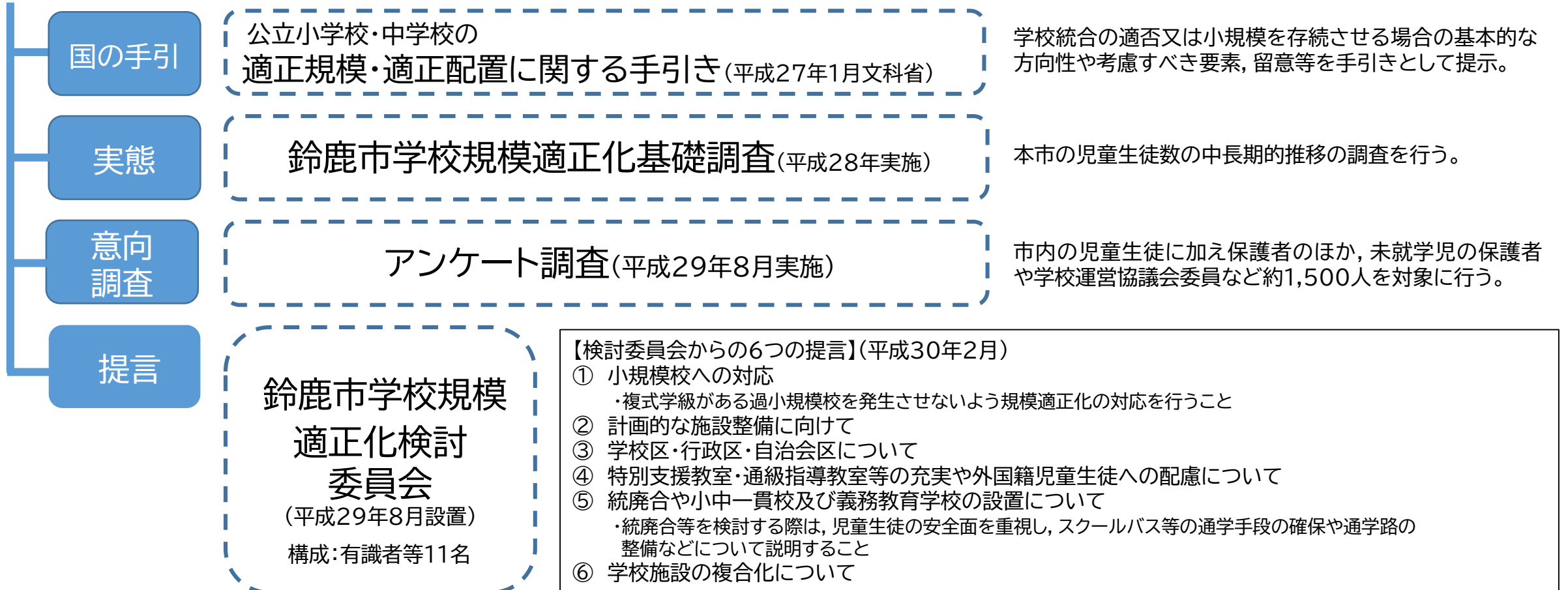
【本日の流れ】

- ① 開会挨拶
- ② これまでの経緯について
- ③ 再編の考え方について
- ④ 今後の取組について
- ⑤ 質疑応答
- ⑥ 閉会 【11時予定】



② これまでの経緯について

少子化の進展が中長期的に継続することが見込まれ、学校の小規模化に伴う、教育上の諸課題が顕在化することが懸念される中、子どもたちが楽しく安心して学べる環境を整備していくため、本市における適正な学校規模のあり方など、基本となる考え方やその実現に向けた方策等を整理。



「鈴鹿市学校規模適正化・適正配置に関する基本方針」策定

(平成30年3月公表)

「鈴鹿市学校規模適正化・適正配置に関する基本方針」

〔本市における適正規模・適正配置の考え方〕

	適正規模	適正配置	
		通学距離	通学時間
小学校	12～24学級（1学年2～4学級）	おおむね4 km以内	おおむね1 時間以内
中学校	9～24学級（1学年3～8学級）	おおむね6 km以内	

〔小中学校における規模の基準〕

	過小規模校	小規模校		適正規模校	大規模校	過大規模校
小学校	5学級以下	6学級	7～11学級	12～24学級	25～30学級	31学級以上
中学校	5学級以下	6～8学級		9～24学級	25～30学級	31学級以上

（基本方針 第4章）

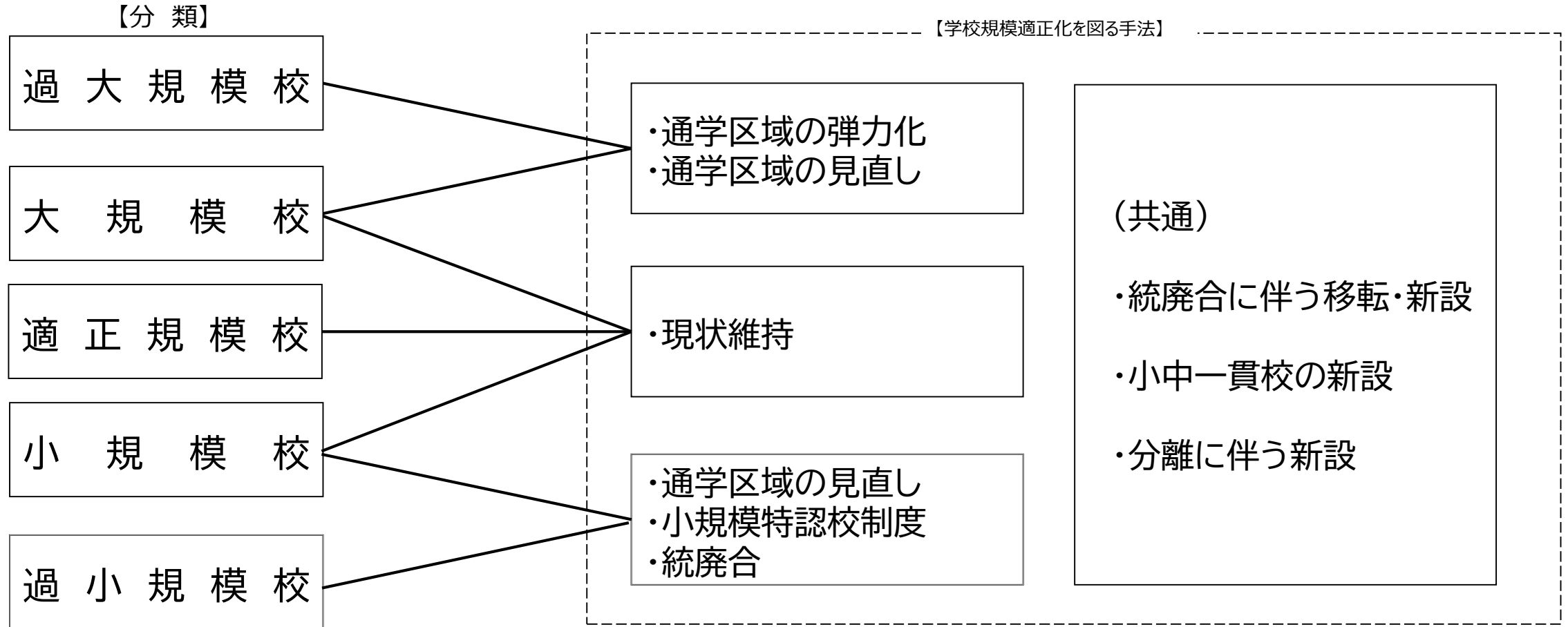
〔検討開始時期〕

- ・ 学校の規模が5学級以下の過小規模校又は31学級以上の過大規模校となる場合には、直ちに保護者や地域も交えて検討する。
- ・ 特に、将来的に過小規模が見込まれる学校については、統廃合の適否も考慮し、将来的な推計において、**過小規模校が見込まれる年度のおおむね5年前を目途に、保護者や地域に説明**する。

（基本方針 第5章）

「鈴鹿市学校規模適正化・適正配置に関する基本方針」

〔学校規模の適正化を図る手法〕



(基本方針 第5章)

【天栄中学校区の児童数と学級数の推計】

■ 実数値による推計

■ 推計値による推移

		令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度	令和 8年度	令和 9年度	令和 10年度	令和 15年度	令和 20年度	令和 24年度
合川小学校	全校児童数	78	68	67	59	54	49	46	53	47	40
	学級数	6	6	5	5	5	4	4	6	5	4
天名小学校	全校児童数	86	75	70	65	68	60	52	40	30	28
	学級数	6	6	6	6	5	5	5	4	4	4
栄小学校	全校児童数	156	149	140	131	116	109	112	138	111	94
	学級数	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6
郡山小学校	全校児童数	182	182	173	171	175	167	158	177	144	121
	学級数	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6

合川小学校の令和5年度以降の児童数は、小規模特認校制度による入学者数は考慮していません。

(令和4年度「20年推計」を基に整理)

過小規模校になる見込み時期

(複式学級発生見込み時期)



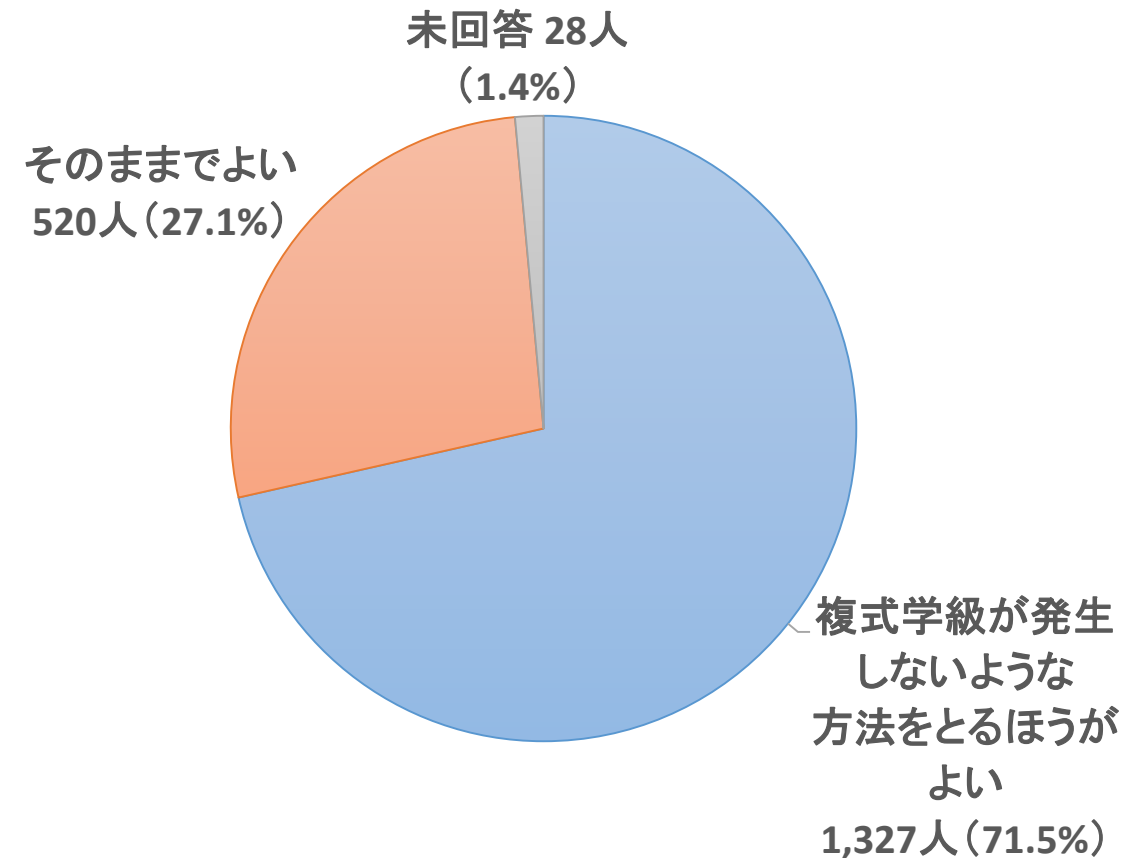
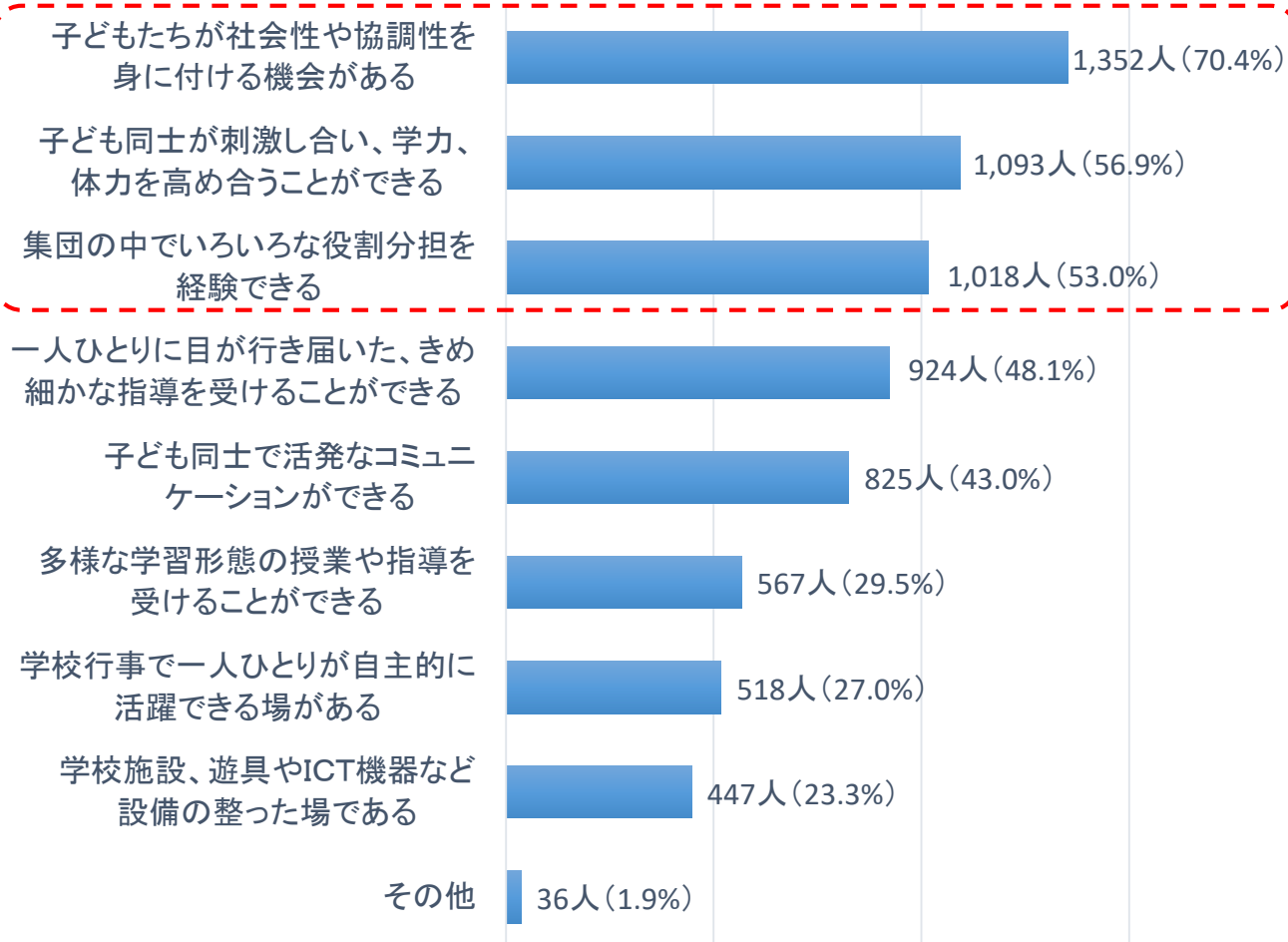
合川小
天名小

令和6年度
令和8年度

【天栄中学校区のアナケート結果より】 実施時期：令和元年11月
回答数：1,920件

◇学校規模適正化・適正配置を考える上で、
特にどのような教育環境を求めるか

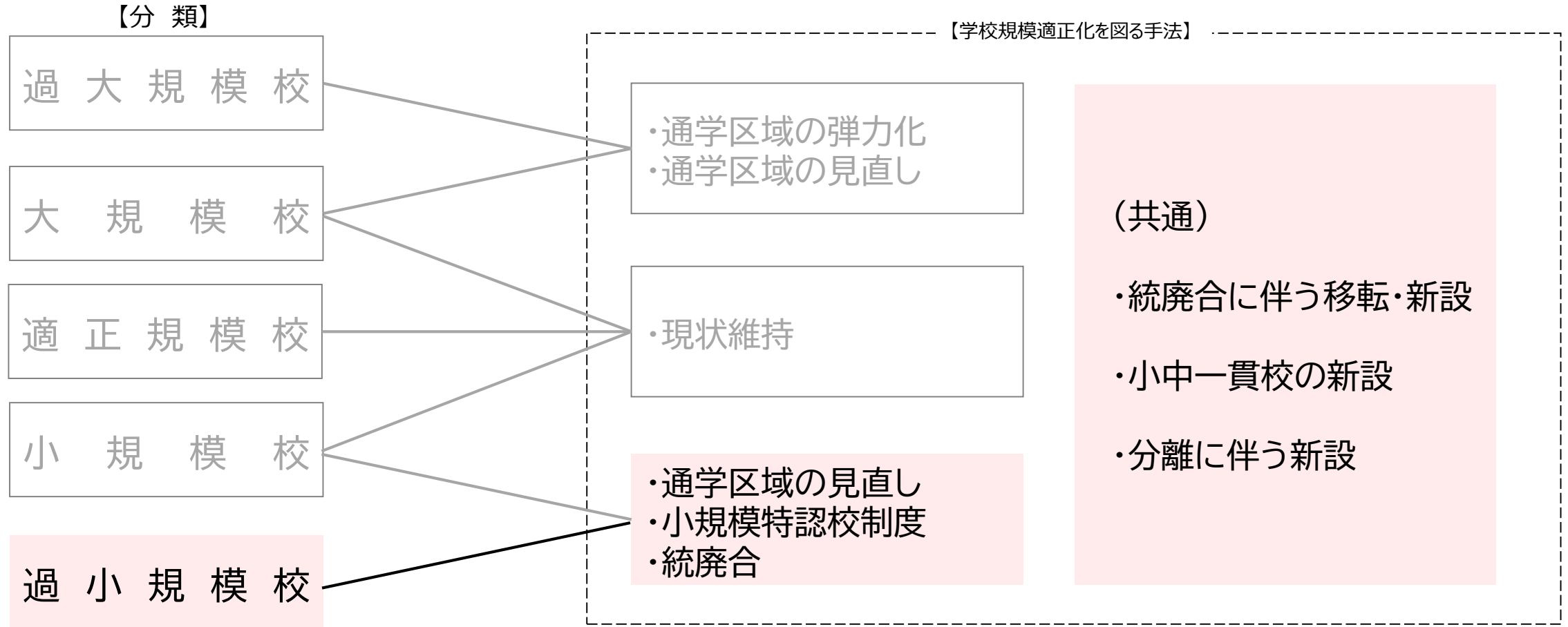
◇児童数が少なく複式学級発生の予測がある
小学校についてどう考えるか



※複数選択可能のため、合計は100%になりません。

「鈴鹿市学校規模適正化・適正配置に関する基本方針」

〔学校規模の適正化を図る手法〕



(基本方針 第5章)

② これまでの経緯について

令和 2 年度

令和 3 年度

令和 4 年度

	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7・8回
合川小学校	<p>今後のあり方 検討会議</p> <p><目的> ・意見聴取 ・情報共有 を行う。 <委員> 保護者・地域等</p>	<p><視点> 『将来の子どもたちの教育環境としてどのような学校がよいか』</p> <p>『存続案』と『統合案』を検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通学区域の見直し ・小規模特認校制度 ・統廃合 					<p>教育政策 課から、 「統合」 を提案。</p>
天名小学校							

【 4月 】

今後のあり方
検討合同会議

【 9月~ 】

郡山小学校の今後の
あり方検討会議

郡山小学校	<p>地域主体 あり方検討会</p>
-------	------------------------

② これまでの経緯について



【合川小学校区】

概要

- 基本方針に定める「学校規模の適正化を図る手法」に基づき、過小規模校に求められる手法から検討。
- 各手法の想定される課題の検証など、実現可能性を探ってきた。
- 令和3年に徳田町自治会から「天名小学校存続に関する要望書」が提出された。



【天名小学校区】

意見 (抜粋)

- 子どもの将来を考えると、どこかのタイミングでは集団に入っていくといけない。多くの子どもたちと触れ合い、色々なことを吸収して行ってほしいと思う。
- 児童を第一優先に考えて、統廃合をスムーズに進めるためにも、今後の方向性を早く決定して欲しい。
- 統合となれば複数の小学校の児童がともに学ぶことになることから、児童同士の良好な関係が構築できるようにしていかなければならない。
- 統合せずに、小学校を残し複式学級で対応しても良いのではないか。



【郡山小学校区】

概要

- 令和2年に地域主体であり方検討会を開催し、郡山小学校の2年生から4年生の保護者を対象に、1学級における規模などの学習環境についてアンケートを実施。
- 令和2年に郡山小学校のあり方検討会から『「第1回郡山小学校あり方検討会」報告と市教委への要望』が提出された。
- 令和4年9月に「あり方検討会議」を立ち上げ、合川小学校・天名小学校での検討経緯や、児童数の現状や将来の推計を共有。

意見 (抜粋)

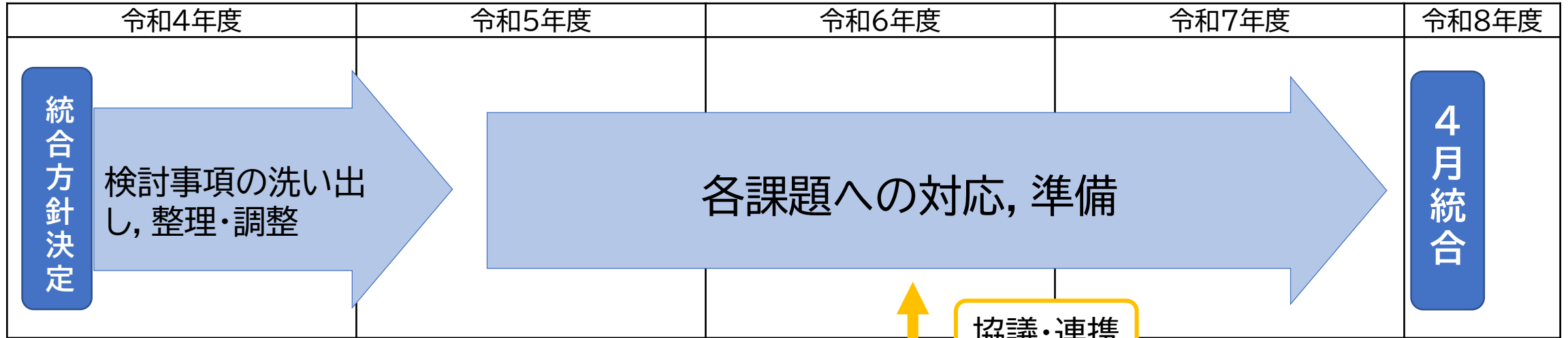
- 郡山小学校に来たいと思える魅力的な学校にしなければならない。
- 統合を契機として、合川・天名小学校のように、地域全体で子ども達や学校のことを地域で考えていく雰囲気、郡山小学校区においてもつくっていければ良い。

再編の考え方

- 再編に際して、児童へのより良い学習環境の提供の視点を持って取り組む。
- 合川小学校・天名小学校・郡山小学校の3校の再編に向けて、令和8年4月の統合を目指して準備を進めていく。
- 統合後の学校設置場所は、郡山小学校を想定している。

今後の再編に向けた検討について

児童数の減少は今後も続くことが見込まれることから、栄小学校や天栄中学校をはじめ周辺の小中学校を含めた本市の南部における学校の適正規模・適正配置に向けて、引き続き、検討していく。



協議・連携

保護者, 地域, 学校

【例】・通学について

- ・通学路の設定
- ・スクールバス導入など
検討事項の整理

- ・通学路を保護者, 地域, 学校と実際に歩いて危険個所の点検
- ・スクールバスの停留所等を保護者, 地域, 学校と協議